

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	ぽっぽランドはちおうじ
担当者名	数馬 尚子
実施日	2025年度7月～9月

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然」をテーマにした年間活動

<テーマの設定理由>

- ・自然環境に恵まれた八王子市の特性を活かし季節ごとの自然に興味を持つ

2. 活動スケジュール

- ・年間を大きく4つに分け活動を実施していく
- ・第一期(4～6月)・第二期(7～9月)・第三期(10～12月)・第四期(1～3月)

3. 活動のために準備した素材や道具

- ・7月・・・水遊び用たらい・ビニールプール・バケツ・噴水シート・水遊び用玩具・シャワーホース
バタフライピー・レモン・ペットボトル
- ・8月・・・ボディペインティング用絵具、食紅、サンキャッチャー・水遊び用玩具、水着、タオル
絵具用の筆、カブトムシ、クワガタ、虫籠、虫用餌、うちわ、虫の本、図鑑・風鈴
- ・9月・・・水・牛乳パック・虫籠・鈴虫・図鑑・鈴虫の餌・糠
絵具・布団圧縮袋・フリーザーパック・タライ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

月	各月のテーマ	内容
7月	夏の生き物と太陽 (夏の自然と生き物に親しむ)	太陽の暑さと水の冷たさを知る、色水遊び 蝶やセミや抜け殻、カブトムシなどの夏の虫の観察 旬の食べ物を知る
8月	太陽と木陰と涼風 (太陽の暑さ、木陰の涼しさを知る)	畑で夏野菜の収穫を楽しむ 風を感じる体験 (うちわ、風鈴など) 水遊びの中で霧吹きから光の角度で虹が見えることを知る。夏の虫の飼育と観察
9月	秋の実りと色彩 (秋の自然と季節の移り変わりをを感じる)	様々な葉を実際に触ってみる 秋の虫の観察 秋の自然と季節の移り変わりをを感じる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【7月の活動内容】バタフライピーとレモンを使つての色水遊びを行い

色の変化に驚き、また近所の冒険広場に行き泥んこ遊びを楽しんだ。先月から畑で泥にも触れるようになっていたので、泥んこを嫌がることはなく、思いっきり楽しむ姿が見られた。井戸水の冷たさを知り、ポンプを押すと水が出る様子を観察し、押さない時に水のしずくが垂れる様子をじっくりと観察するなど興味関心がさらに広がっていった。食育ではかぼちゃの種とりやスイカの観察を行った。大きなスイカを叩いて音を聞き、持ち上げて重さを感じる事ができた。



【子どもたちの様子】7月に入ると園庭で天候の良い日は毎日水遊びを行った。

7月から入園した園児も畑に行つて夏野菜に水やり収穫を行つてから水遊びに移ることで少しずつ慣れていく事ができた。水の冷たさ、水しぶき、水を様々な道具ですくつて他の容器に移すなどそれぞれじっくりと遊びこむ姿が見られた。



玩具を水に浮かべるだけでなく、収穫した野菜を水に浮かべて観察する様子や「ぶかぶか」と浮いているピーマンを沈めぐるぐる水をかき混ぜて、ピーマンが回る様子を楽しむなどの工夫が見られた。



【振り返りと気づき】水遊びは気温が高くなってきた6月下旬から興味を持ち始めていた。去年は水遊びで水が怖くて泣く様子も見られたが、今年は泣くこともなくそれぞれのペースで水遊びに慣れ親しんでいった。普段の水やり、泥んこ遊び、色水遊び、雨が降った日はバケツに水がどのくらいたまかなど7月の水遊びに向けて慣れ親しんだことで水遊びに抵抗なく、自然に水遊びに興味を持っていくことができた。



【準備したもの】水遊び用たらい・ビニールプール・バケツ・噴水シート・水遊び用玩具・シャワーホース
バタフライピー・レモン・ペットボトル

【8月活動内容】毎日取れる野菜の収穫を喜ぶ。水遊びを通じてシャワーから虹が出来ることに興味を持つ。
虹に興味関心を持ったタイミングでサンキャッチャーを窓につるして光の色に興味を持つ。カブトムシ、クワガタを飼育することで夏にいる虫に興味を持つ。
うちわで扇ぐと風が吹いて涼しいことや、風鈴製作を行い風が吹くときれいな音色が鳴ることを知る。



【子ども達の様子】毎日夏野菜が収穫できることで、子ども達は実をもぎ取ることが上達した。どのくらい大きくなったら収穫の時期なのかも解るようになっていった。畑にいる蝶やアリ、バッタなどにも興味関心を持った段階で、園でカブトムシやクワガタムシを飼育し始めた。初めは慎重に観察していた子ども達だったが、毎日餌やりをしていくことで、登園してカブトムシやクワガタに会うことがこと楽しみになっていった。

水遊びのシャワーからできる虹を見て大喜びしていたのでサンキャッチャーを窓に吊るした。光を指で何度も摘まもうとする仕草やスプーンを持ってきて光を食べようと試みていた。赤、青、と言いながら指をさして光の色を見つけ喜んでいった。うちわで扇がれると心地よい涼しさを知り、自分でも仰いで楽しんでいった。風鈴製作を行い、窓から



風が入り込んでくると鳴る音を聞くと急いで風鈴のそばに行って「ちりーん！」と言って観察を行っていた。



【振り返りと気づき】5、6月から畑で水やりを始め、気温が高くなるに連れて水に興味を持っていた子ども達。8月になると水遊びはすっかり慣れて水が光に反射するとキラキラしているなどが理解できるようになってきた。シャワーから見える虹に気が付いて喜び、自由画帳に虹を描くなどしていた。色水遊びからボディペインティングに発展させるときも子ども達は初めての経験でも興味を持って参加できていた。今まで初めてのことは慣れて楽しさを感じることが出来るまでに時間を必要としていたが、普段から自然に触れることで、様々な経験を培ってきたからこそだと感じた。暑いときにうちわで扇ぐと涼しいと感ずることができた。



初めはうちわを扇ぐ行為を楽しんでいたが、うちわの風から発展し、戸外で風が吹くと涼しいということも理解して風が吹くと「すずしいね」と話すようになった。

風鈴は地元の神社(子安神社)で願い事風鈴が境内に毎年この季節になると飾ってあるのでとても興味を持っていた。自分の風鈴が鳴ると大喜びしていた。来年も風鈴製作を行ってきたい。

【用意したもの】ボディペインティング用絵具、食紅、サンキャッチャー

水遊び用玩具、水着、タオル、絵具用の筆

カトムシ、クワガタ、虫籠、虫用餌、うちわ、虫の本、図鑑、風鈴、うちわ

【9月活動内容】色水遊びから絵具にも興味を持ってきたので混ぜ色遊びから

これから秋にかけて紅葉する葉の色の変化に気が付けるように考えた。カトムシやクワガタの飼育を通じて虫に興味関心を持ってきたので、鈴虫の飼育も始める。様々な感触に慣れるため



糠を使い、粘土遊びを行う。暑い日時は氷遊びを行い、溶けて水に戻る様子を知る。

【子ども達の様子】気候が秋らしくあるにつれて、徐々に水遊びだけでなくお散歩に出かけられるような気候になるにつれて、散策活動が盛んになってきた。様々な感触遊びを通じて、砂場だけでなく、土を使って山を作り泥んこ遊びもスムーズに行え楽しむ事ができるようになっていった。

鈴虫の飼育では虫の様子をよく観察し、きれいな虫の音に大喜びしていた。静かにしていると虫が鳴き、大きな声で遊んでいると虫は鳴かないことを体感して覚えていった。鈴虫の食べ物を図鑑で調べ、調理の先生に野菜くずを毎日もらいに行くなど、飼育を楽しむ事が出来ていた。氷遊びでは牛乳パックに水、葉っぱ、玩具等を入れて冷凍庫で凍らせた。一日待ってどうなるか観察し、氷を触って冷たい、ツルツルしている、硬いなど触った感触を楽しんでいた。また、水の中に入れてたらどうなるのだろうと実験を始める様子も見られた。

鈴虫の音色は午睡時に安心を得られ入眠しやすいように見受けられた。鈴虫に餌をあげるのを楽しみに登園してくるようになり、登園してすぐに虫かごの様子を見に行っていた。鈴虫が鳴くと子ども達も「りーんりーん」と鳴きまねをしている姿がみられた。



【振り返りと気づき】暑さが少し和らぎ、お散歩に行けるようになると

散策活動が活発になった。身近な草花、石や枝などの自然物に興味を持っていた。氷遊びではそれぞれ好きな玩具や葉っぱなどを水に入れて凍らせることで、興味関心が深まっていった。氷がなかなか解けないので、手で温めてみたり水に入れてみる、お日様の当たる場所に置くなど工夫をし始め解けるまでじっくりと観察していた。子どもが納得いくまで観察する時間を十分持つ配慮が必要と感じた。

鈴虫が園に来た初日はじっくりと観察していた。カブトムシなど飼育経験があったので、すぐに何を食べるのか？興味が行く様子だった。調理の先生に野菜のくずをもらいに行くのが楽しみにもなり、調理の先生とも交流を



持ちやすくなった。糠を頂いたので糠についてお話をし
糠の香り、感触を知り、水を少しずつ入れて粘土を作った。
塊になっていく様子を見て興味を持ち、遊び始めることが
できていた。外で見つけた虫も怖がることはなく、観察できて
いる。



【用意したもの】水・牛乳パック・虫籠・鈴虫・凶鑑・鈴虫の餌・糠
絵具・布団圧縮袋・フリーザーパック・タライ

